

令和元年度 エンパワメントプログラム 報告

12月24日(火)～12月26日(木)に、国際理解コース生徒全員がISA主催のエンパワメントプログラム(国内短期留学)に参加しました。エンパワメントプログラムの目的は、欧米の一流大学に学ぶ大学生・大学院生とのディスカッションを通して、異文化理解力と英語力の更なる必要性に気付かせ、日本人とは何か、自己とは何かを考えることを体験することにあります。

カリキュラムに関しては、ネイティブ(英語)のファシリテーターが全体の進行を行います。また、生徒5～6名に留学生1名がグループリーダーとしてつき、テーマに沿ってディスカッションやプレゼンテーションをしながら、高度な英語発信能力、リーダーシップなどを養います。もちろん、プログラム中は全て英語だけで活動に取り組みます。

研修の様子



1日目の最初に、本プログラムを担当するファシリテーターとグループリーダーの紹介がありました。グループ分けされた生徒たちは、グループリーダーとの新たな出会いに胸を膨らませ、真剣に自己紹介を聞いていました。その後、各グループで自己紹介を行いました。最初は英語だけでの活動に不安な様子は見られましたが、すぐにリーダーと打ち解けていました。

ファシリテーターからは、本プログラムに参加するにあたって、必ず英語だけでコミュニケーションを行うようにと伝えられました。間違いを恐れずに、自分の言いたいことを伝えることの大切さについて、具体例を踏まえながら、生徒たちに講義をしてくださいました。また、本プログラムの目的は、英語を学習するのではなく、英語を用いて「深く考えること」とであるというメッセージが送られました。



活動の多くは、各グループでディスカッション形式を用いて行われました。「自分自身のポジティブな側面」「本プログラムに対する自分の目標」「My identity」「リーダーシップについて」「環境問題」「日本の良い点・悪い点」「自分の夢」など、身近なトピックからアカデミックなものまで、生徒が興味を持つようなトピックが与えられました。英語だけでディスカッションを行うことは非常に難しいことです。しかし、グループリーダー達が、難しい内容を分かりやすい英語で説明したり、生徒の発言に対して前向きなフィードバックを与えたりして、生徒が前向きにディスカッションに参加することができるよう支援をしてくださいました。1日目は、英語でのディスカッションに慣れない様子でしたが、2日目からは積極的に英語を話す姿が多く見られるようになりました。



1日目は「各グループの名前について」、2日目は「メコン川の水問題」について、グループプレゼンテーションを行いました。英語だけで準備を行い、プレゼンテーションすることは、多くの生徒にとって難しいものですが、グループリーダーが上手くサポートしてくれたおかげで、立派なプレゼンテーションを行うことができました。また、地球的課題について考えることは、実りのある機会になりました。

最終日には、本プログラムの中で最も大きな活動である個人での英語スピーチを行いました。ファシリテーターから、スピーチにおける大切な技術についてレクチャーがありました。また、原稿作成や発音に関しては、各グループリーダーから個別の指導をしてもらいました。本番前は、クラスメート同士で練習を行い、本番では堂々とすばらしいスピーチをしてくださいました。



ファシリテーターとグループリーダーとの出会いは、コース生徒にとってかけがいのない思い出になりました。本プログラムに参加して、「英語コミュニケーション能力(特にスピーキングとリスニング)が向上した」「英語の表現力が身についた」「間違いを恐れずに自分の言いたいことを伝えたいと思うようになった」「最終日のスピーチを通して自信がついた」「グループ活動を通して人の意見と自分の意見を比べることができた」「深く考えることを学んだ」など、多くの成果を実感することができたようです。本プログラムの経験を踏まえて、英語学習に対する意欲が高まり、3学期の授業や自学自習に対する取り組みが更に良くなりました。コース生徒の今後の活躍が期待できます。